

中学3年1組 音楽科学習指導案

指導者 小村 聡

1. 題材名 声の重なりによる響きを感じあおう ～ア・カペラに挑戦～

2. 授業の構想

(1)本校で毎年行われる校内音楽会では、学年ごとの課題曲と各クラスで選曲する自由曲の2曲を披露する。3年生の課題曲は混声四部合唱「大地讃頌」であるが、3年生は1学期の早い時期から「大地讃頌」を歌うことに意欲を示し、授業での取り組みを待ちきれず、休み時間等に何人かで音楽室や合唱室に集まって練習をする光景が見られる。また、廊下を歩きながら数人でハモってみたり、口ずさんでみたりして楽しんでいる生徒の姿が見られる。2学期に入り、体つきも一回り大きくなり、女子生徒の声には艶が生まれ、男子生徒の声には深みと輝きが生まれている。また下級生たちは3年生がつくり出す混声四部合唱の響きに対して「自分たちもあのように歌いたい」とあこがれや夢を持つ。

小学6年生から中学3年生までの期間を本学校園では中等部という。人間の成長の中でこの中等部は心身ともに著しい成長（変化）を伴うことは言うまでもない。殊に声の成長は、単に音域の変化をもたらすだけでなく歌唱表現の幅を広げ、深めていくことにつながる。生徒たちは中学1年生で変声期を学習し、自分たちの声の成長・変化を意識し始めた。時折、始業時のあいさつの声や授業中のしゃべり声に意識を向けさせたり、歌声を録音したものを聴かせたりしながらその変化に気づかせるようにしてきた。特に男子生徒の声の変化に対しては、男子生徒自身はもちろんのこと女子生徒にも十分に意識させるよう、発声の中で徐々に低音域を広げたり、男声二声で歌うのを女子生徒に聴かせたりしながら活動を進めてきた。その中で、女子生徒が男子生徒に拍手を送るなど声の成長を喜びあい、認めあう姿が見られた。また、中学2年生の時から授業の冒頭で音の書き取りを行ってきた。音の書き取りとは教師が弾くピアノの音や教師が階名で歌う簡単なメロディを楽譜に書き取るものである。楽譜を書く力がつくことにより読譜力へとつながっていくことを期待して取り組んでいるものであるが、この取り組みにより生徒たちの音を聴くことへの集中力や音の高さやリズムへの関心が高まってきているように感じる。このように音への関心を高め、声の成長・変化とその声の重なりにより生まれてくる音の世界を感じさせながら活動させることにより、より歌を愛好する気持ちと表現を求める姿が育っていくものと考える。

(2)このような生徒たちの実態を基盤としながらア・カペラに取り組ませる。ア・カペラ (a cappella) は、一般的に無伴奏で合唱・重唱すること、またはそのための楽曲のことである。音楽史や古楽などの用語としては、ヨーロッパの教会音楽の様式を指し、伴奏の有無は問わない。元々は後者の意味であったが、そこから派生した前者の意味がもっぱら普及しており、今回の取り組みでのア・カペラは無伴奏合唱のことを意味する。ア・カペラに取り組ませることによって、音に対する注意力や集中力が増し、自分の音と周囲の音との関係を深く感じるようになる。また、ピアノなどの音があるときよりもハモリを感じやすく、ハモったときの喜びやハモる楽しさを感じることができる。本題材でのねらいは、お互いの声を聴きあい、声の重なりによる響きやハーモニーを感じあうことである。これまでお互いが聴きあい、響きやハーモニーを感じることは様々な取り組みの中ですでに行ってきたことであるが、純粹に声だけでつくり上げることにより、よりその意識が高まっていくものと考える。そして、声が重なることの喜びや楽しさを感じさせることにより、純粹に「歌うって気持ちいいなあ」「表現するって気持ちいいなあ」と感じ、さらに歌を愛好する生徒へと育っていくことを期待する。

教材として「Hail Holy Queen」を取り上げる。この曲は、1992年公開のアメリカ映画「天使にラブソングを (Sister Act)」の劇中歌として注目を集め、今なお多くの人々に親しまれている。元々は女声合唱であるが、それをもとに混声四部合唱に編曲し、さらに短く構成しなおしたものを使用する。曲全体は教会音楽の様式からゴスペル音楽へと変化する。教会音楽の部分はテンポがゆっくりで、お互いの

声が聴き取りやすくハーモニーを感じやすいと考える。男子生徒の低音域が安定してきているので、バスパートを土台にした厚みのある声の積み重ねを期待する。またゴスペル音楽の部分は、フットやハンドクラップがつくことにより気持ちが乗りやすく、興味・関心も高まり楽しく歌えると考え。

(3)本単元第1次では、楽曲との出会いを大切に、生徒たちの興味・関心を高めるために様々なア・カペラ合唱作品を聴かせる。ア・カペラ合唱のもつ純粋な響きを味わわせ、その世界の心地よさに浸らせた上で楽曲に出会わせる。そして原語の読み練習とリズム唱を行わせ、体ほぐしと発声の後、各パートでの音取りを行わせる。第2次では、まずハモることに重点を置き、二声、三声、四声の「日常カデンツ」に取り組ませる。「日常カデンツ」とは日常のあいさつにハーモニーを付けたものやチャイムの音などを合唱で行うものである。身近なあいさつなどでハモらせることで、ハモることをより身近なものとして感じさせたい。楽曲の各パート練習では、パートリーダーを中心に行わせるが、確かな音程が歌えるようキーボードに合わせて歌わせる場面と、キーボードに頼らず自分たちの耳に頼りながら歌わせる場面とを設定する。合唱練習はしっかり耳を使わせユニゾンを合わせることを意識させ、次にユニゾンからハーモニーを組む瞬間を意識させ、声の重なりと音の広がりを感じさせたい。第3次では、ゴスペル音楽の部分を中心として、気持ちを高めるためにフットやハンドクラップを取り入れ、声が響きあう喜びと歌い発散する喜びを味わわせたい。

本時は、まず音の書き取りをさせる。この取り組みが音への関心を高めるという点でア・カペラ合唱に取り組ませる上でも大切な基盤となっていると考える。続いて本時の学習のめあてを確認した後、歌声作りのための体ほぐしと発声をさせる。歌う意欲を引き出すよう声がけをしながら、より響きあう声作りも意識させたい。そして、楽曲では声の重なりを感じるという点から冒頭の教会音楽の部分を取り上げる。まずユニゾンを女声のみで歌うのと男声が入るとでどのように感じ方が違うか問いかけながら、同声と混声による違いを気付くようにしていきたい。次にユニゾンからハーモニーへ移る瞬間に着目させ、声の重なりによる広がりや深まりを感じさせたい。また、生徒たちに冒頭部分で歌っていて一番気持ちいいと感じる部分を挙げさせ、その部分を重点的に取り上げるにより、ハモることの心地よさや楽しさをより一層感じることができるようにする。最後に歌はいつでもどこでも歌え、そして声を合わせることで気持ちが柔らかく開放されていくことを伝えたい。

3. 活動展開計画（全4時間 本時3/4）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	ア・カペラ合唱作品との出会い	1	<ul style="list-style-type: none"> 様々なア・カペラ合唱作品を鑑賞をする。 音の書き取りと体ほぐし・発声をしたのち「Hail Holy Queen」の原語読みとリズム唱、パート練習をする。
2	パート練習と合唱練習	2 ③	<ul style="list-style-type: none"> 音の書き取りと体ほぐし・発声をし、ハモることに重点を置いて二声・三声・四声による「日常カデンツ」をする。 パート練習と合唱練習をする。 音の書き取りと体ほぐし・発声・「日常カデンツ」をする。 冒頭の教会音楽の部分の合唱をする。
3	ア・カペラ合唱の楽しみ	4	<ul style="list-style-type: none"> ハモりの確認をする。 ゴスペル音楽の部分にフットとハンドクラップをつけて合唱をする。

4. 本時の学習

- (1)ねらい
- ・声の重なりを聴きあい、純粋な響きやハーモニーを感じあうことができる。
 - ・声を重ねることの楽しさを感じることができる。

(2)展開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
1. 音の書き取りをする。 2. 前時の学習を振り返るとともに、本時の学習のめあてを知る。	・前半はピアノで簡単なメロディを弾き、後半は階名で歌って書き取りをさせる。 ・音に対する集中力や注意力を高めたい。
声の重なりを聴きあって、ハモリを感じあおう	
3. 体ほぐしと発声をする。 4. 二声・三声・四声による「日常カデンツ」をする。 5. いろいろな声部の重なりで合唱をする。 ○ユニゾンで女声のみで歌う ○女声のみのユニゾンに男声も加わる ・厚みを感じる ・どっしり安定した感じがする ○ユニゾンからハーモニーに移るところを歌う ・広がっていく感じがする ・音程が取りにくい ○歌っていて一番気持ちのいいと感じる部分を繰り返し歌う ・声が溶け込む感じがする ・歌っていて気持ちいい ○通して歌う	・歌う意欲を引き出すように声がけをしながら行うと同時に響きあう声作りを意識させながら行う。 ・簡単なハモリをさせることで、ハモることへの安心感を持たせたい。 ・身近なあいさつなどでハモらせることで、ハモることをより身近なものとして感じさせたい。 ・ユニゾンを女声のみで歌うのと男声が入るのとでどのように感じ方が違うか問いかけながら、同声と混声による違いを感じさせたい。 ・ユニゾンからハーモニーに移るところに着目させ、声の重なりによる音の広がりや深まりを感じさせたい。 ・歌っていて一番気持ちいいと感じる部分を挙げさせ、その部分を重点的に取り上げ、ハモることの心地よさや楽しさをより一層感じさせたい。
6. 今日の学習を振り返る。 ・ハモるって気持ちいい ・声が重なると心地いい ・一人で歌うより楽しい	・ア・カペラ合唱を体験してみても感想を発表させる。 ・歌はいつでもどこでも歌えることを伝えたい。そして声を合わせることで気持ちが柔らかく開放されていくことを伝えたい。